

**入湯税超過課税分充当事業
令和2年度 事業報告書**

入湯税超過課税分の使途 “5本の柱”

① 温泉資源の保護、確保

- せーので測ろう別府全域温泉一斉調査 (p1)
- 地下水の現状調査 (p2)
- 別府市温泉賦存量調査・別府市温泉現況調査 (p3)
- 共同温泉改修等補助金 (p4)

② 観光客の快適性確保 (ストレスフリー)

- デジタルサイネージ回遊ルート検索システム保守業務 (p5)
- フリーWi-Fiの周知及び増設 (p6)

③ 観光客の安全・安心の確保

- 別府インターナショナルプラザ組織強化 (p7)
- 駅前情報発信Café維持管理・運営業務 (p8)

④ 観光客を増加させるための事業推進

- 別府版DMO機能充実のための新規人材の雇用 (p9)
- 観光マーケットター育成事業 (p10)
- 海外旅行会社とのネットワーク構築 (ランドオペレーター) 事業 (p11)
- 既存資源の磨き上げによる新規アクティビティ開発事業 (p12~13)

⑤ 観光客の受入体制の充実

- トイレ整備費及び除草作業等景観維持費用 (p14)

① 温泉資源の保護、確保

1) セーので測ろう別府全域温泉一斉調査

事業費の推移

令和元年度：1,566千円 令和2年度：816千円

事業目的

○資源保護及び市民への啓発のため、市有源泉を中心に実施している源泉の定点観測調査について、民間事業者の源泉を含め拡大し、データの蓄積と温泉資源保護の必要性を周知する。

事業内容

○市民参加型の温泉資源の定点観測調査を行う。継続的に温泉調査を行い経年変化の有無等を確認するため、温泉水のサンプル採取、温泉水の温度及び電気伝導度測定の実施する。

事業実績

・市営温泉、共同温泉等の源泉の経年変化を確認するために毎年実施している市民参加型の調査であるが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症予防の観点から市民参加を求めず、温泉課だけでサンプル採取を行った。例年同様に、温泉水のサンプル採取、温泉水の温度及び電気伝導度測定の実施した（訪問施設は25施設、採取した泉源は39か所）。温泉のサンプルは水質分析機関に分析依頼し、7つのイオン分析（ナトリウムイオン、カリウムイオン、カルシウムイオン、マグネシウムイオン、塩化物イオン、硫酸イオン、炭酸水素イオン）を行った。

（共同温泉での温泉採取）



（共同温泉での温泉採取）



（市有源泉での温泉採取）



（民間施設（足湯）での温泉採取）



一斉調査で得られた過去の科学データは、広く一般に公開し、基礎的な情報を提供することを目的として、「セーので測ろう！別府市全域温泉一斉調査 Webマップ」をホームページにおいて公開している。

https://www.city.beppu.oita.jp/sangyou/onsen/seno_isseichosa.html

事業評価

○新型コロナウイルス感染症の拡大により市民参加型の調査を中止したことで、普段から別府の温泉を利用している人に、温泉調査を体験してもらい、温泉に科学の側面から触れていただくとともに、資源としての温泉を考えてもらえる機会を作ることができなかったが、温泉課職員による調査を行い、継続的なデータの蓄積を行うことができた。

① 温泉資源の保護、確保 2) 地下水の現状調査

事業費の推移

令和元年度：0千円 令和2年度：9,999千円

事業目的

○温泉資源に必要な地下水に関するデータが不足しているため、地下水の利用状況を把握し、温泉資源の保護施策の基礎資料とする。

事業内容

○別府市の地下水の状況に関する調査研究について、京都大学への受託研究事業により実施する。

事業実績

・令和2年度分の受託研究事業として「別府扇状地における地下水の現状に関する情報整理」等について調査報告がまとめられた。

(令和2年度報告書)



令和2年度別府市の地下水の現状に関する調査研究報告
(京都大学大学院理学研究科附属地球熱学研究施設)

I 別府扇状地における地下水の現状に関する情報整理

1. はじめに
2. 別府扇状地における井戸・湧水分布の情報整理
3. 井戸・湧水の利用状況, 深度に関する情報整理
4. 1955年の石垣地区における湧水および井戸水の水質分布
5. おわりに

- 2-1. 改変キーダイヤグラムによる泉質区分
- 2-2. 混合型熱水の形成要因
- 2-3. 別府扇状地における熱水泉質の空間分布
3. 地下熱水における深度ヒストグラムに関する考察
4. 熱水流動経路

II 最新の温泉泉質データに基づく地下熱水流動経路の推定

1. はじめに
2. 泉質区分の決定

- 4-1. 別府扇状地における熱水流動経路の全様
- 4-2. 熱水流動経路における深度の違い
- 4-3. 過去の熱水流動経路との比較
5. おわりに

事業評価

○京都大学への受託研究事業により令和2年度分の調査研究報告を得ることができた。温泉資源の一部といえる地下水調査は資源保護の観点から重要な資料として位置づけており、次年度以降も継続して実施することが必要である。

① 温泉資源の保護、確保

3) 別府市温泉賦存量調査・別府市温泉現況調査

事業費の推移

令和元年度：51,773千円 令和2年度：16,410千円

事業目的

○別府市内の全泉源の温泉の現況を把握するとともに、温泉の賦存量予測を行い、温泉資源の持続可能な保護対策の基礎資料とする。

事業内容

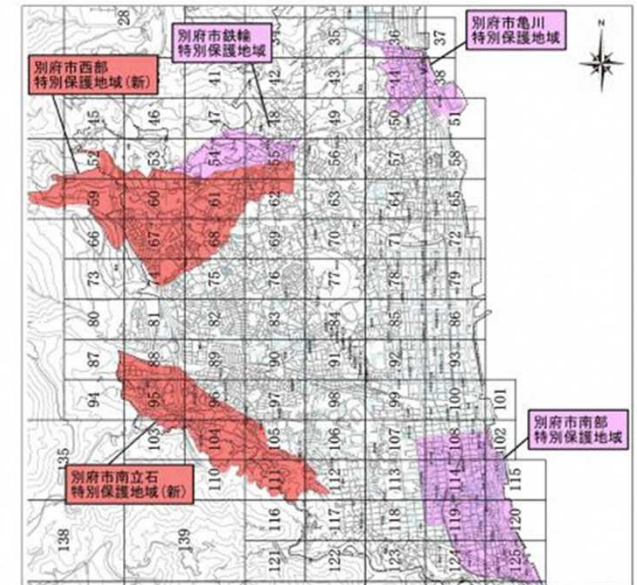
○温泉資源の持続可能な保護対策の基礎資料とするため、別府市内の全泉源を対象に温泉現況調査を行うとともに、過去の調査データとの比較により温泉の賦存量予測を行う（大分県と共同で実施）。

事業実績

- ・令和元年度から行っている調査で、令和2年度が最終年度。実地調査及びサンプルデータの分析と過去の文献などから現在の別府温泉の温泉資源の状況をシミュレーションを行った。
- 別府市温泉現況調査及び別府市温泉賦存量調査は、温泉資源保護地域の見直しの資料として活用され、大分県環境審議会温泉部会により、新たな特別保護区域（西部特別保護地域、南立石特別保護地域）が指定された。

【別府市の特別保護地域の指定】

名称	時期
西部特別保護地域 南立石特別保護地域	追加（令和4年4月1日施行）
亀川特別保護地域 鉄輪特別保護地域 南部特別保護地域	昭和43年3月5日～



事業評価

○大分県と共同で令和元年後から行った別府市温泉現況調査、別府市温泉賦存量調査について、温泉資源の持続可能な保護対策の基礎資料として活用している。また、別府市温泉現況調査結果は、GISデータに登録し活用する計画である。

① 温泉資源の保護、確保

4) 共同温泉改修等補助金

事業費の推移

令和元年度：525千円 令和2年度：1,277千円

事業目的

○共同温泉から要望の多い、温泉運営に支障のある軽微な補修、手すりや浴槽内段差設置といったバリアフリー対応に関し、即応性の高い予算執行を可能とする。

事業内容

○市有区営温泉のうち、立ち寄り入浴のできる共同温泉において、温泉利用に資する部分に係る急を要する改修、手すりの設置等バリアフリー対策、その他観光客の入浴のための施設整備に要した経費に対し、補助金を交付する。

事業実績

・令和2年度は、7施設に対し補助金を交付した。

(令和2年度補助金交付実績)

No.	種別	事業内容	補助金額
1	施設改修	風呂場天井補修	200,000円
2	バリアフリー対応、観光客入浴対策	駐車場整備	200,000円
3	施設改修	室内環境整備	200,000円
4	施設改修、バリアフリー対応	浴槽内踏み段、手すり設置	200,000円
5	施設改修	温泉改修	200,000円
6	バリアフリー対応	浴槽内踏み段設置	77,000円
7	施設改修	ベランダ防水	200,000円

別府市共同温泉環境整備等補助金（概要）

対象となる共同温泉

市有区営温泉の中で組合員以外（観光客等）も立ち寄り入浴可能な温泉で使える補助金（3年度に1回利用可能）

補助対象事業（改修等の経費の合計が5万円以上の場合に限る）

- (1) 温泉利用に資する部分に係る急を要する改修を行う事業
- (2) 手すりの設置その他のバリアフリー対策を行う事業
- (3) 説明板の設置その他の観光客の入浴のための施設整備を行う事業

補助金額等

補助率1/2（上限20万円）

事業評価

○既存制度（貸付補助金制度）に比し、即応性の高い補助金として温泉組合にも利用しやすい制度の提供を行うことができた。

②観光客の快適性確保（ストレスフリー）

1) デジタルサイネージ回遊ルート検索システム保守業務

事業費の推移

令和元年度：600千円 令和2年度：660千円

事業目的

○別府市を訪れる観光客や市民にとって、「どこでも必要な情報が手に入る」環境を構築するため、情報通信環境の整備を図る。

事業内容

○デジタルサイネージ（映像表示装置）を設置して、観光客のニーズに合った観光情報や二次交通の情報を提供する。

事業実績

【システム内の更新等】

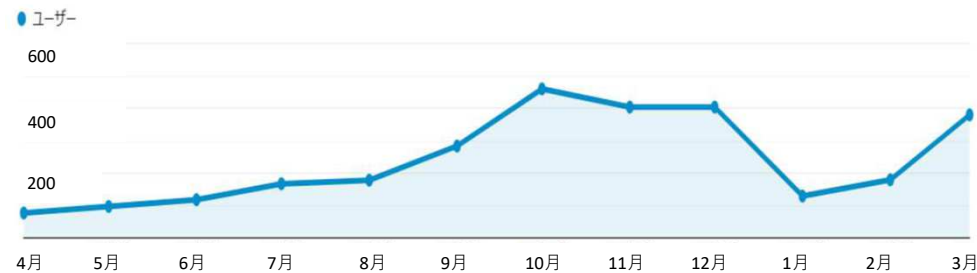
- ・観光プラン、スポット等の新規登録および修正等
- ・サイト（デジタルサイネージ、WEBサイトのトップページ）デザインの修正、コロナウィルスに関するお知らせの掲載、イベントのバナー作成ほか

【システムの保守】

- ・本システムへの不正な侵入による停止や障害の発生を予防し、また障害発生時の影響を最小限に食い止めるため、セキュリティ対策を講じる。

デジタルサイネージ

〈2020年 年間利用実績（利用者がデジタルサイネージをタッチした回数）〉

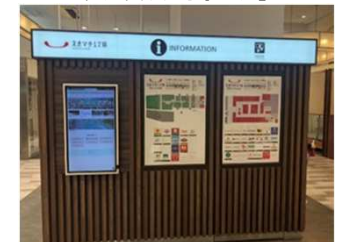


・コロナ感染者数や緊急事態宣言およびその解除に比例して利用実績が増減していることがわかる。

【利用モデル】



【別府駅構内に設置されたデジタルサイネージ】



- ・新型コロナウイルス感染症の流行による観光客の激減により、年間ユーザー数（利用者数）は2,819人に止まる。
- ・年間のユーザー数、セッション数（訪問離脱回数）、ページビュー数（ページ表示回数）から、1ユーザー当たり概ね1回、約1分間、1～2ページを閲覧利用していたことになる。
- ・※直帰率（※1）が79%と高い要因としては、ユーザーが観光案内所である程度の情報を得た後で、なおも不足する明確な疑問（バスの時刻や乗り継ぎなど）を解決するために利用する等が考えられる。

※1 直帰とは、対象となるホームページに入ってきて、1ページしか閲覧せず出ていってしまうこと。その数のことを直帰数、その割合のことを直帰率という。

事業評価

○コロナ禍ということもあり、緊急事態宣言およびその解除に応じて利用実績が増減しており、期待していた利用者数を大きく下回った。直接端末の操作が必要であり、利用者数が伸びなかったため費用対効果等を考慮し、現況ではシステム内の更新等や保守は見合わせている。

②観光客の快適性の確保（ストレスフリー）

2) フリーWi-Fiの周知及び増設

事業費の推移

令和元年度：1,793千円 令和2年度：1,034千円

事業目的

○別府市を訪れる観光客や市民にとって、「どこでも必要な情報が手に入る」環境を構築するため、情報通信環境の整備を図る。

事業内容

○別府市内にあるフリーWi-Fiの設置場所や登録方法を周知するとともに、利用ニーズ等を検討した上でWi-Fiスポットの増設を実施する。

事業実績

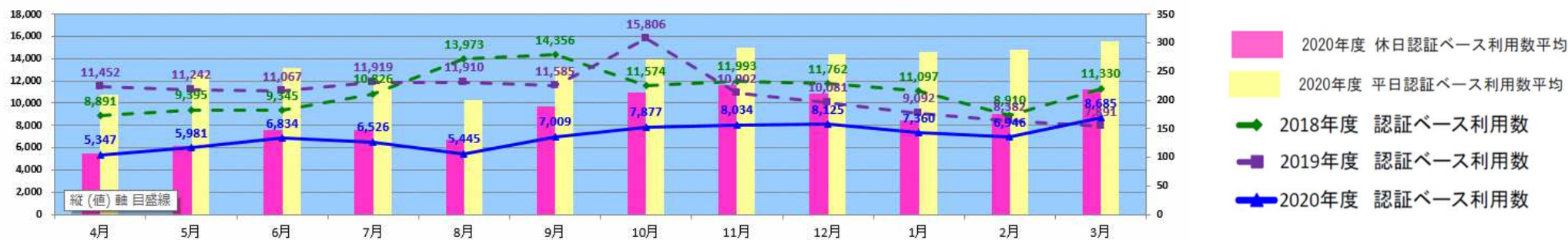
【周知に関すること】

・別府市内のフリーWi-Fi（Onsen Oita Wi-Fi City）設置場所（19箇所：JR別府駅やビーコンプラザ、主な市営温泉等に設置。別府市ホームページで確認が可能。）において、ステッカーや説明パンフレットの設置状況を確認し、これらが不足している場所には再配布を実施した。

【増設に関すること】

・別府公園東門周辺にWi-Fiスポットを増設し、令和2年6月に運用を開始した（これにより、別府市内のフリーWi-Fi設置場所は20箇所となった。）。また、別府市ホームページに「入湯税超過課税事業」による設置であることを明記した。

<利用実績 ※増設した別府公園東門を除く19施設の認証ベース利用数（実際に認証登録を行い、無料インターネットを利用した回数）>



・コロナ禍のため、利用数は減少している。また、休日の利用よりも平日の利用が多いことから、観光客の利用よりも市内在住者の利用が多いと推測される。

事業評価

○国内携帯電話事業者のデータ接続料の低廉化の他、海外からの旅行者はレンタルWi-Fiを準備する方が多い傾向にあるため、今後のフリーWi-Fiスポットの増設については、コロナ後における利用者の動向等を踏まえつつ、検討していく必要があると考えられる。

③観光客の安全・安心の確保

1) 別府インターナショナルプラザ組織強化

事業費の推移

令和元年度：16,081千円 令和2年度：11,892千円

事業目的

○市内ボランティア団体の活動に大きく依存してきた訪日外国人観光客案内業務を、持続可能な業務体制とする。

事業内容

○市内3か所の観光案内所運営を掌るB I P（別府インターナショナルプラザ）事業部人材を雇用する。

事業実績

〈各案内所の利用実績〉

観光案内所	鉄輪		えきマチ1丁目		ワンダーコンパス	
	体制	1名		1～2名		2～3名
営業時間	9:00～16:00		9:00～17:00		9:00～18:00	
来場客数	令和元年度	令和2年度	令和元年度	令和2年度	令和元年度	令和2年度
	26,005名	5,201名	53,215名	10,643名	30,185名	7,374名
イメージ						

【雇用】

- マネージャー(全体統括) … 1名
- サブマネージャー(案内所統括) … 1名
- 経理事務職 … 2名

※上記4名は観光案内所運営の他、別府市の多文化共生事業も担っているため、勤務場所については、状況に応じて臨機応変に対応している。

※表中の「体制」は上記以外のパート勤務スタッフの配置数。

事業評価

○新型コロナウイルス感染症の影響により、インバウンドはほぼ来訪がない状況である。令和2年度は国内旅行者及び在留外国人の来訪がメインとなった。アフターコロナを見据え、より充実したサービスを提供できるように「店舗のレイアウト変更」「スタッフのスキルアップ」等に努める。

③観光客の安全・安心の確保

2) 外国人向け観光案内所「駅前情報発信café」維持管理・運営業務

事業費の推移

令和元年度：13,752千円 令和2年度：15,264千円

事業目的

○急増する外国人観光客（インバウンド）に対応できる観光案内所「駅前情報発信café（ワンダーコンパス別府）」の運営強化を目的とする。

事業内容

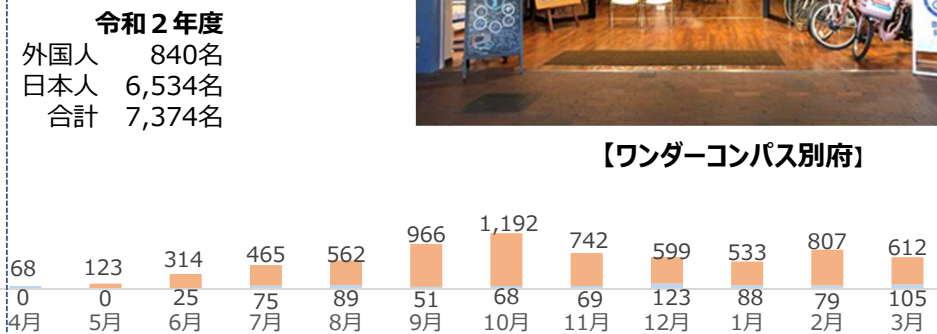
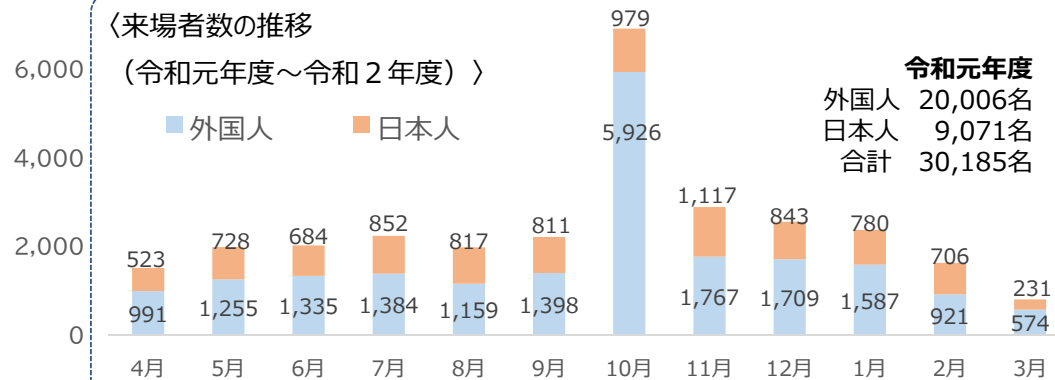
- ① 外国人観光客へ向けた情報提供及び情報収集
- ② 外国へ向けた別府観光の情報発信(クチコミの拠点)
- ③ 外国人観光客同士の情報交換ほか

事業実績

- ・ 来場者数：7,374名（令和元年度30,185名）/ 年間目標来場数16,500人（令和6年度までに）
- ・ 運営体制：常駐3名
- ・ 営業時間：9:00～18:00
- ・ サービス：案内業務および各種チケットの販売（地獄めぐり、エアライナー等）のほか、レンタサイクル、手荷物の預かり、ガイドサービス、ドリンク販売など、各種サービスの提供も行う。
- ・ その他：他自治体の観光等ポスター・チラシの有償設置



【ワンダーコンパス別府】



事業評価

○令和元年度は、ラグビーワールドカップ大分開催もあり外国人観光客の需要があったが、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により外国人観光客はほぼない状況で、5月1日から5月31日までは閉店し、6月1日から感染防止対策を実施し営業を再開した。夏休み期間、9月下旬に始まったGoToキャンペーンにより国内観光客が増加したが、来場者数は、前年に対して大きく減少し年間来場者目標数の16,500人には届かなかった。新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながら、今後は国内旅行者及び在留外国人の来訪に備える必要がある。

④観光客を増加させるための事業推進

1) 別府版DMO機能充実のための新規人材の雇用

事業費の推移

令和元年度：30,000千円 令和2年度：30,000千円

事業目的

〇マチに根差した地域づくりとエビデンスに基づいた観光地戦略を描ける人材を雇用し「別府の稼ぐ力」を向上することを目的とする。

事業内容

〇別府市の基幹産業である観光産業を発展させるため、地域経済活性化アドバイザーを雇用しB-bizLINKの経営指針となる「中長期観光戦略」等を策定し実施する。

事業実績

今年度はこれまでも懸案となっていた経営課題を整理しその改善を行うことにした。まず法人が置かれている状況を総合的に判断する目的で「キャッシュフロー経営」の導入を行った。新会計システムを導入し経営会議等を行うことで経営状態の「見える化」に成功し、**事務費は前年度対比20%減と大幅に削減することができた**。また経営上の様々なリスクを未然に防ぐ目的で「リスクマネジメント体制・内部統制の強化」を行った。特に契約関係における法務リスクについては弁護士、社労士等と顧問契約を新たに締結し、決裁規定、就業規則ほか内規の全面見直しを行い令和2年度法務トラブルゼロという結果に繋がった。

次に中長期戦略の根幹となる法人の「存在意義」「あるべき姿」について、改めてミッションを明確化し戦略の立案を行った。数値目標として令和5年までに、別府市をはじめとする官公庁等からの受託事業売上を3億、営業利益を3千万、また自主事業である新規事業売上を3億、営業利益を3千万として目標設定した。官公庁等からの受託事業については「宮崎県ゴルフツーリズムプロモーション事業（受託金額500万円）」「大分県内観光案内所連携事業（受託金額340万円）」など、別府市への誘客が大きく期待できる事業を中心に受託した。また将来的に別府版「観光DX」を構築し観光産業の変革を目指すために「別府オリジナル宿泊予約サイト」の事業に着手した。令和3年度現在も進行中で引き続き推進していく。

事業評価

〇コロナ禍で多くの制約はあったものの、「#別府エール飯」「ラグビーワールドカップファンゾーン運営」など、これまでの信頼と実績により市内外・県内外から多くの受注を受け、別府観光の発展に繋げる活動が出来たと判断する。

④観光客を増加させるための事業推進

2) 観光マーケッター育成事業

事業費の推移

令和元年度：780千円 令和2年度：780千円

事業目的

〇まちに根差した地域づくりとエビデンスに基づいた観光地戦略を描ける人材の雇用を目的とする。

事業内容

〇別府市のマーケティングを行う人材が必要なことから、APU（立命館アジア太平洋大学）等で観光マーケティングを履修している学生を、インターンシップとして受け入れ、現場でその実践機会を提供する。

事業実績

	育成方針	実績
1人目（中国出身） APU 3 回生	【観光】 訪日中国人観光客の調査分析指導を通して、中国市場に対する今後の誘致施策を考える	<ul style="list-style-type: none"> ・訪日中国人観光客の訪日回数と旅行形態、旅行目的及び旅行日数の関連性を整理 ・海外旅行会社とのオンライン商談会にセラーとして参加（中国語対応） ・オーストラリア旅行会社向けバーチャルツアー制作に参加
2人目（日本出身） APU 4 回生	【観光・産業地域づくり】 B-biz LINKが制作するビジネス情報発信メディア「GENSEN」の取材指導を通して、別府で生まれるビジネスの可能性を探る	<ul style="list-style-type: none"> ・海外旅行会社とのオンライン商談会にセラーとして参加（英語対応） ・GENSENメディアの立ち上げ支援、ライターの取り纏め、取材進行サポート ・令和2年夏 ANA社と連携したEC(電子商取引)サイトでの別府ギフト販売企画：構築、運営サポート
3人目（日本出身） 大分大学3回生	【産業地域づくり】 B-biz LINKが制作するビジネス情報発信メディア「GENSEN」取材指導を通して、別府で生まれるビジネスの可能性を探る	<ul style="list-style-type: none"> ・別府のまち全体に根付く温泉地ならではの人の温もり、多様性、ジェンダーの垣根を超えた共生社会など、あらゆる視点から別府のリアルな姿を取材記事にて発信。 ①令和2年10月16日 取材先：太陽ミュージアム 「車いす、乗ったことある？太陽ミュージアムに学ぶ共生社会とは」 ②令和2年12月25日 取材先：株式会社JIITAK（ジータック） 「ミレニアル世代が描く“三方良し”のビジネス ～日本とインドをつなぐ若手ベンチャーの見る世界とは～」

事業評価

〇上記3名は現在マーケッターとしての業務に従事していない。要因としてはインターンシップ制度の就労期間等に限りがあるため、業務との関わり方が浅いものになっていることがあげられる。また、受入側としても通常業務の合間を縫っての関わりとなるため、十分なフォローや指導が困難であることから、今後体制を含め、大学との綿密な協議のもと双方にメリットとなる制度を構築する必要がある。

④観光客を増加させるための事業推進

3) 海外旅行会社とのネットワーク構築（ランドオペレーター）事業

事業費の推移

令和元年度：12,960千円 令和2年度：13,200千円

事業目的

○外国人観光客数の増加を目的とする。

事業内容

○OB-biz LINKが訪日観光市場の最前線で活動するベンチャー企業と提携し、訪日旅行を取り扱う海外旅行会社に対し幅広いアプローチを行う。

事業実績

(1) 情報発信〔(B to B) 企業間取引〕

コロナ禍により、海外旅行会社等の招請や訪問営業ができないため、WEB会議サービスやオンライン動画共有プラットフォームを活用し、旅行会社に対しバーチャルツアーを3回催行した。

タイトル	対象旅行会社	参加者数	内容
鉄輪街歩きツアー	欧米豪	312	豪インフルエンサーと共に視聴同時アンケートを取りながら進める臨場感あるツアーを実施。
別府竹工芸ツアー	オーストラリア	75	竹ひごの切り出しから編みの実演まで、携わる職人のインタビューを交えて英語にて紹介。
鉄輪地獄蒸しツアー	シンガポール	210	市内在住のシンガポールからの留学生を交えて、クイズ出題形式で地獄蒸しを実況中継。

(2) ランドオペレーター業務

海外旅行会社とのオンライン商談（訪日ツアー提案及び情報収集）

【オーストラリア 11社】【タイ 17社】【ベトナム 11社】【台湾 12社】【欧州(ドイツ・スペイン・イギリス) 13社】【香港 14社】

⇒どの国、地域も「2022年春」を想定しての質問が見受けられた。

事業評価

○コロナ禍で思うような成果は得られなかったが、提携先企業の調査によると来年度中に旅行商品販売を開始したいと回答した海外旅行会社は50%以上に上る。欧州をはじめ国内でもワクチン接種率70%に届き、ようやくコロナ収束の兆しも見えてきた中、アフターコロナを見据えたPR活動が行えたと判断する。

④観光客を増加させるための事業推進

4) 既存資源の磨き上げによる新規アクティビティ開発事業

事業費の推移

令和元年度：0千円 令和2年度：16,800千円

事業目的

○稼げる観光資源や別府の強みを磨き上げる企画案及び事業計画を作成し、必要に応じて磨き上げ資金や運営プレイヤーを調達、広告費等自走初期の伴走をする。

事業内容

○訪日観光市場の最前線で活動するベンチャー企業と提携し、訪日旅行を取り扱う海外旅行会社に対し幅広いアプローチを行う。

事業実績

(1) 海外旅行会社とのオンライン商談会（ビジネスアクティビティ）開催による広域セールス

【オンライン商談会の内容】

1. 商談会の枠組み作成
 - ・海外旅行会社への参加募集、要請など。
 - ・海外旅行会社との商談機会の希望調査（売り込み）など。
 - ・通訳手配ほか。
2. 運営
 - ・当日の時間配分など参加自治体との事前打合せ。
 - ・当日の商談会の取り回しほか。
3. アフターフォロー
 - ・その後の進捗確認ほか。

参加	豪州	タイ	ベトナム	台湾	香港
北九州市	○	○	○	○	○
熊本市	○	○	○	—	—
熊本県観光連盟	○	○	○	—	—
阿蘇市	—	—	—	○	—
佐賀県観光連盟	○	—	—	—	—
武雄市	—	—	—	○	—
嬉野市	—	—	—	—	○
雲仙市	○	○	○	○	—
耶馬溪観光協会	○	—	—	○	—
竹田市	—	—	—	○	—
佐伯市	—	—	○	○	○
宇佐市	—	—	—	—	○
別府市	○	○	○	○	○

(2) ANA受託事業「ONSENガストロノミーウォーキング（その土地の気候風土が生んだ食材・習慣・伝統・歴史などによってはぐまれた食を楽しみ、その土地の食文化に触れることを目的とするウォーキング）企画運営」

⇒ 誘客多角化等のための魅力的な滞在コンテンツ造成に向けた実証調査事業～with コロナ期に対応する新たな旅の形

- ① ONSEN・ガストロノミーホッピングin地元民が愛する別府の食：参加者98名
- ② 別府民がこよなく愛するおき別府飯・路地裏ウォーキング：参加者40名
- ③ “湯～沸く ワークーション” モニターツアー（コワーキングスペースを活用しながら、温泉宿やリゾートホテルなど多様な施設で滞在し、①②を体験）：参加者20名

(3) 西鉄バス受託事業「グランデイズツアー企画」

⇒ 九州初、大型バスでありながら座席数12というラグジュアリー仕様の貸切バスを使ったツアー企画の造成事業

【グランデイズコンセプト】…JR九州の「ななつ星」に対抗

【企画ツアー】…「地元有名ガイドと行く！五感で感じる別府臼杵心洗ツアー」

福岡市発→臼杵（まち歩き・精進料理・窯元・石仏）→別府泊→別府（塚原火口・鉄輪まち歩き・地獄蒸し葉膳）→福岡市着

【実施予定】…令和3年秋

事業評価

○コロナ禍での事業展開となったが、リモート対応や感染症対策等をしっかり行うことで「安心・安全」の事業運営が多くの参加者から受け入れられたことは、企画提案・運営の新たなスタンダードが確立できたと判断する。

⑤観光客の受入体制の充実

1) トイレ整備費及び除草作業等景観維持費用

事業費の推移

令和元年度：2,993千円 令和2年度：1,600千円

事業目的

〇トイレの改修・整備や道路の除草作業等を行うことにより、おもてなしの向上を図る。

事業内容

〇トイレの改修・整備や、国道や県道といった所管外施設の除草作業費等を実施する。

事業実績

〇トイレトーパーの補充等を実施した

大谷公園



渋の湯広場



別府公園



事業評価

〇トイレトーパーの補充を行い、観光客の快適性の向上に努めることができた。